

### 【全体概要】

シンテッポウユリは、4品種で6～9月出荷を行っているが、晩生系品種を用いた9月出荷については、定植後の高温遭遇によるロゼット回避のための冷蔵処理を行っているが、抽だい率が低く、出荷量が安定しない。そこで、新品種を導入し、品種特性を生かした9月出荷安定栽培技術を確立し、出荷期の拡大と生産量の拡大を図る。

### 新品種・新技術等の概要

#### ○新品種「西尾EX(エクセレント)」

県内の民間育種家である西尾氏が育成した品種群を「博多シンテッポウユリ」として生産し系統販売している。

既存の8月出荷用品種より生育・開花が早く揃いが良く、抽だいに必要な低温遭遇量が少なく、ロゼットになりにくい。

#### ○9月出荷の安定生産技術の確立

県内5か所で実証ほを設置し、苗低温処理及び定植時期を実証。開花期や切り花形質を評価。



### 主な取組内容

【事業検討会・設計・成績検討会】(6月・2月)

【プロジェクト会議】(6～1月、2回)

【実証ほの設置】(6～12月) 県内5か所設置

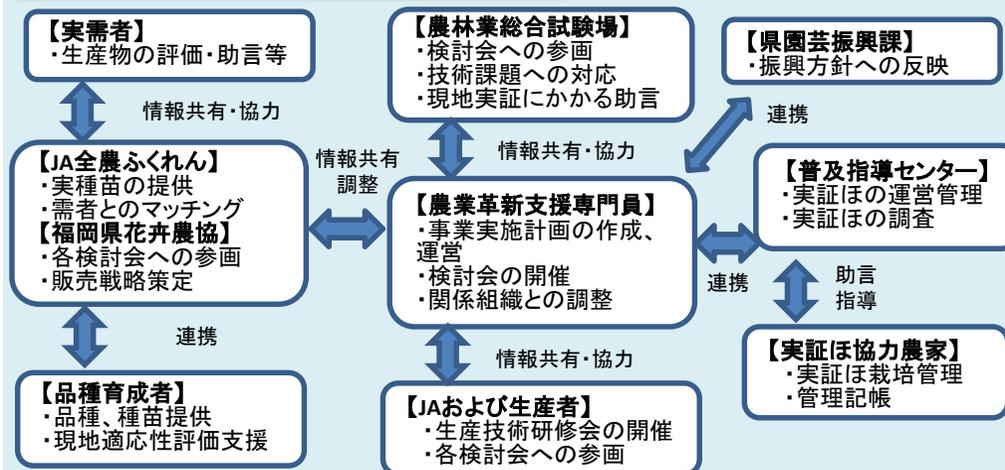
【現地検討会】(7～12月)

実証ほの現地検討会を実施

【先進地・市場調査】

先進地の鳥取県及び関西市場において求められる出荷時期、規格・品質等について調査。

### 実施体制図



### 実績と今後の展開

#### 【実績】

- ①実証試験により、9月出荷可能な定植時期及び定植時期に対するロゼット回避のための冷蔵処理の必要性について確認。
- ②「西尾EX」における9月出荷安定生産技術確立のため栽培マニュアルを作成。
- ③9月出荷作型の栽培面積は0a(H29)から10a(R1)に拡大。

#### 【今後の展開】

- ①9月出荷作付拡大及び品質向上のための遮光処理試験等を実施。
- ②販売戦略に基づく長期継続出荷産地の育成。